ONCC　12 期生　てくてくウオーキング科

7 月 12 日（金）

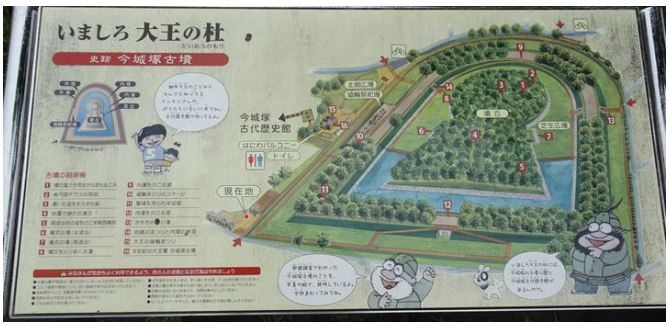
今城塚古墳、西国街道を経て芥川宿を散策

10 時に JR 摂津富田駅に集合し、臨時バスに乗って氷室バス停へ。2 グループ（2・4 班、1・3 班）に分かれ、高槻市文化財スタッフの会のガイドさんの案内で以下を歩きました。
今城塚古墳→今城塚古代歴史館→芥川廃寺の回廊→素盞嗚尊神社→嶋上郡衙跡→清福寺太子堂→橋詰地蔵尊→教宗寺→芥川宿→芥川一里塚三宝大荒神→芥川仇討の辻→JR 高槻駅前（解散）

生憎の雨天でしたが小降りにて、また気温も 20℃台前半と高温には至らなかったので、思いのほか過ごしやすかったです。

● 今城塚古墳

「いましろ大王の杜」は今城塚古墳公園と今城塚古代歴史館とをあわせた市民公園です。そのシンボル・今城塚古墳は淀川流域最大級の前方後円墳で、墳丘だけで全長 181m、その周囲の二重の濠を合わせると総長約 350m、総幅約 340mもの規模を誇ります。この古墳は 6 世紀前半につくられた継体天皇（聖徳太子の曾祖父）の墓だといわれています。雨のため足元が悪く墳丘に登れなかったのは残念でした。

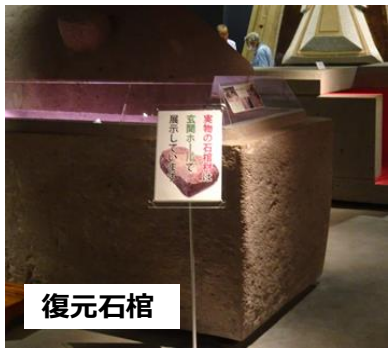


古墳の北側で内堤（内濠を囲む堤）から外濠に向かって突き出した長さ 65m、幅 10m の場所があります。ここはかっての埴輪祭の場所、埴輪祭祀場であり、人、動物など 200 個以上の埴輪が置かれていたといわれています。

古代王権の儀礼をそのままに再現された埴輪祭祀場を遠望した写真

● 今城塚古代歴史館

平成 23 年（2011 年）４月にオープンした古代を体感できるミュージアムです。発掘調査で明らかになった形象埴輪群と３基の復元石棺をはじめ、ジオラマや映像展示によって、今城塚古墳のありさまをわかりやすく知ることができます。


復元石棺

石棺内部

巨大古墳の築造

今城塚古墳の模型
（100 分の１サイズ）

衝角付冑
・挂甲

冠帽と玉枕：阿武山古墳（阿武山の中腹・標高約 210m の尾根上にある）から発見された棺内には、銀線で青と緑のガラス玉をつづった玉枕(たままくら)を用い、きらびやかな錦をまとった 60 才ほどの男性の遺体がありました。Ｘ線写真などの分析から、男性は亡くなる数ヵ月前に肋骨などを折る事故に遭っていたことや、金糸で刺繍した冠帽(かんぼう)をそえてあったことがわかっています。葬られた人物は、中臣(藤原)鎌足とする説が有力です。

復元された
冠帽と玉枕

神獣鏡：安満宮山古墳の木棺から発見された青銅鏡です。魏が倭国女王・卑弥呼に対し与えた「銅鏡 100 枚」（魏志倭人伝）の一部ではないかと言われています。

三角縁獣文帯四神四獣鏡

● 芥川廃寺の回廊

素盞嗚尊神社の南側の水田や道路になっている場所は、現在の素盞嗚尊神社境内と同様、かつて郡寺のあったところ、即ち「芥川廃寺跡」であることが発掘により、明らかにされています。

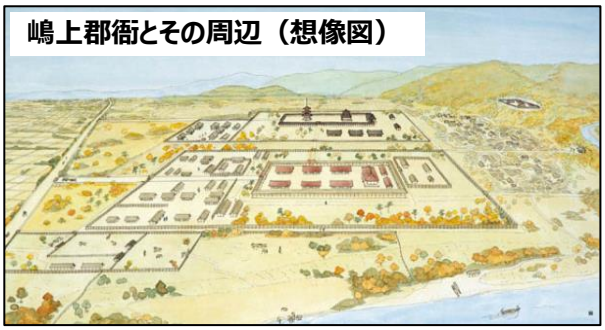
● 素盞嗚尊神社

この神社の東側は、かつて奈良時代に嶋上郡衙（嶋上郡の郡役所）のあったところで、素盞嗚尊（すさのおのみこと）神社が創建される前は、ここには郡の繁栄を願う郡寺（芥川廃寺）があったとされています。祭神は神社名の通り、素盞嗚尊。

近くで見かけたアオサギ

● 嶋上郡衙跡

高槻・島本は古代の摂津国嶋上郡にあたり、ここを治めるために置かれた郡役所が、嶋上郡衙（しまがみぐんが）です。都や国の役所にならって、儀式の場・庁院や税を納める正倉などが整えられていました。



● 清福寺太子堂

かつて清福寺は大工職人が集まって住んでいた大工村でした。清福寺太子堂は、大工の職業神として信仰されていた聖徳太子を祀るお堂です。お堂は清福寺大工組が中心となって建立され、大工同士の交流の場所となっていました。

● 橋詰地蔵尊

「橋詰地蔵尊」は芥川宿の西口に位置し、悪病や疫病の侵入から宿場を守る、道祖神の役目も果たしていました。

● 教宗寺

教宗寺は高槻市芥川町にある阿弥陀如来を本尊とする浄土真宗本願寺派の仏教寺院です。境内には庫裏、鐘楼堂のほかに、境内の一角に花崗岩製の石槽があり、大阪府の有形文化財に指定されています。

● 芥川宿

17 世紀初めに徳川幕府によって整備された参勤交代のための本陣、伝馬などが置かれました。19 世紀前半には旅籠 33 軒、家数 253 軒を数え大いに賑わった由。

● 芥川一里塚三宝大荒神

街道沿いには、一里塚が設けられ宿場が整えられていました。一里塚とは、1 里(約 4km)ごとに街道の両脇に塚を築き、榎を植えて、街道の路程の目印としたものです。

12 時 50 分頃、JR 高槻駅前で解散となり、1 班は駅前で昼食を済ませて帰宅しました。
ガイドさん、終始丁寧なご説明有難うございました。

（1 班広報担当）